

酷暑に打勝つ稲づくり!

コメ高温障害対策研究会
鳥取県産米改良協会
鳥取県

健全な稲を育てるための五つの心得

その1 土づくり

- ★ 作土深確保・堆肥施用 → 地力増進
- ★ 鉄分等の補給 → 秋落ち・ごま葉枯予防

生育後期まで
根の活性維持!

鉄分不足による
ごま葉枯病



浅水による分けつ確保

その2 初期生育促進

- ★ 適正な植付株数
- ★ 浅水管理(水温上昇) → 分けつ確保
- ★ 早めのガス抜き

生育のスタートダ
ッシュが肝心!

その3 水管理徹底

- ★ 適正な中干し → 田面硬度確保
- ★ 中干し後の間断かんがい

生育後期まで
適正に給水!
早期落水厳禁!!



適正な中干しによるひび割れ



葉色診断による穂肥

その4 栄養補給

- ★ 適正な基肥施用 → 登熟に必要な体力維持
- ★ 適正な穂肥施用

生育後期まで
健全な光合成!

その5 刈遅れ防止

- ★ 適期刈取 → 基部未熟粒等増加防止

近年は茶米・胴割粒
も増えてます!



基部未熟粒

具体的技術内容
については裏面へ。

☆ 酷暑に打勝つ稲を育てるためには、生育前半で体をつくり、 生育後半の生理状態を良好に保つことが重要です！

○土づくり

- ・ 作土深の確保や堆肥を 1～2t/10a 施用することで地力を向上し、ミネラル G の 100～200kg/10a 施用等によって鉄やケイ酸等を補給することで、根を始めとする稲体の活力を維持し、生理障害を回避する。

※ 適切な土づくりによって、気象変動による極端な生育への影響が緩和されることがあります。

○適正な生育量の確保

- ・ 極端な疎植を避け、目標茎数と穂数を確保することで、総粒数を確保する。
- ・ 茎数確保のため、昼間の浅水・止水により分けつ期における水温を確保する。
- ・ ガス湧きの状態に注意し、早めにガス抜することで、還元障害による生育停滞を防止する。

※ 分けつが遅れ、収量に必要な総粒数確保を一穂粒数に依存すると、玄米充実等の登熟に不利になります。

○水管理の適正化

(1)適期中干しの徹底

- ・ 田植後 30～40 日程度経過して目標茎数が確保された後、早めに落水を開始し、水田内を容易に歩き回れる程度の田面の硬さを中干し終了の目安とする。
- ・ 通常の中干し期間は、足跡水がなくなってから 7 日程度が目安となるが、部分的な表面水は溝切等によって排水に努める。

※ 中干しによって田面を硬くする時期は幼穂形成期までの期間しかないの、遅れないように注意しましょう。

(2)間断かんがい・適期落水の徹底

- ・ 中干し後は、入水・減水を繰返して土を湿潤状態に保ち、根の活力維持に努める。天候等の事情により田面が軟らかい場合は、減水期間を長くすることで、徐々に田面を硬くしていく。

※ 中干しが不十分なほ場においても、出穂後 30 日以内の早期完全落水は厳禁です。

(3)気象変動に対応した入水

- ・ 台風通過やフェーンの発生が予想される際は、出穂後 30 日以内の水稻で倒伏がない場合、穂ズレや蒸散過多による稔実不良の防止のため、適度に入水し水位を確保する。

○窒素施肥量の適正化と生育後期における栄養状態の充実

- ・ 生育過剰による品質・食味低下及び屑米増加を防止するため、基肥窒素の多肥を避ける。
- ・ 穂肥は、栽培基準に示された各品種における施用適期の葉色に応じて、施用量を調節する。

※ 穂肥施用時期が出穂期に近いコシヒカリ・星空舞は、作業時期を逸しないよう天候の経過等に注意しましょう。

- ・ 基肥一発施肥では、高温で窒素成分が早期に溶出することや、施用時期が早すぎること穂肥の効果が期待できない場合があるため、幼穂長を基準に施用時期を判断し、葉色値を計測の上で穂肥施用を検討する。

※ 星空舞は、基肥一発体系で原則として穂肥を施用しませんが、極端に葉色が淡い場合は、JA・普及所に相談し、状況をよく確認しながら、食味や生育に影響を及ぼすリスクも理解した上で、穂肥の必要性を判断しましょう。

○適期刈取の推進

- ・ 夏季高温や残暑によって刈取適期の早期化が顕著であり、刈遅れによる品質低下のリスクも高まるため、例年の作業暦日にこだわらず、積算気温、青粒率を確認して適期に収穫を行う。

※ コシヒカリ等のように登熟期の夜温が高い作期では、玄米の炭水化物の蓄積が劣るため、刈遅れると日数の経過とともに基部未熟粒等が増加する傾向にあります。近年は、茶米・胴割れも増加しています。

【主要品種ごとの収穫適期目安】

品種	8～10月の気象区分	出穂後日数(日)	出穂後積算気温(℃)	青粒率(%)	籼水分(%)
コシヒカリ	通常年	—	1,000	10.0	—
	低温年	38～46	910～1,070	16～18	25～26
	高温年	33～42	890～1,140	10～25	23～26
ひとめぼれ	通常年	—	1,000	5～10	—
	低温年	43～45	1,000～1,110	10～21	24～27
	高温年	38～42	910～1,110	14～21	24～28
きぬむすめ	通常年	40～45	1,050～1,150	5～13	22～24
	低温年	47～53	1,010～1,100	9～22	25
	高温年	37～46	890～1,100	6～29	21～26

【星空舞の収穫適期目安】

標高区分	出穂後日数	出穂後有効積算気温	出穂後積算気温	青粒率(%)	籼水分(%)
300m未満	39～50日	620～770℃・日	1,000～1,260℃・日	0～10%	19～22%
	41～55日	510～620℃・日	920～1,170℃・日	0～12%	23～24%

星空舞は、登熟期間における気温の高低で区分せず、有効積算気温(平均気温から15℃差引いた気温の積算)を基準として収穫適期を判断しています。

技術の詳細については、お近くのJAか農業改良普及所へご相談ください。